

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	サバナケート県において、洋裁技術の基礎を身につけた女性・若者を育てることができた。 ① 日本人専門家によるサバナケート県立職業訓練校セボン分校での洋裁技術指導により、洋裁の基礎技術が向上した。 ② 職業訓練校に通学できない人への洋裁技術指導のために、出張ワークショップを開催できるよう、事前準備を行った。
(2) 事業内容	【実施できた活動】 <u>1. セボン分校における洋裁技術指導、販路開拓支援</u> 1-1: リボーン・京都オリジナルラオス語洋裁教科書の作成及び教科書の配布（英語/ラオス語） 1-2: 基礎縫い用資材（ものさし、はさみ、布地等）の供与 1-3: 日本から派遣したプロジェクトマネージャー、洋裁専門家による洋裁技術指導（2月14日～3月27日※その後新型コロナウイルスの影響で日本人駐在員が帰国） <u>3. 出張ワークショップによる洋裁技術向上</u> 3-1: 開催場所の確保と、ワークショップに関する説明会の実施、布地やはさみ等の資材の供与 <u>4. サバナケート職業訓練校本校でのフォローアップ指導</u> 4-1: 2020年2月に5日間、フォローアップ指導を実施 【実施できなかった活動】 新型コロナウイルスの影響で日本人駐在員が3月末に帰国したため、以下の活動は実施できなかった。 <u>1. セボン分校における洋裁技術指導、販路開拓支援</u> 1-2: ロックミシン、工業用ミシン等の機材の供与 1-4: 完成した作品を受講者が着用して行う完成披露会 1-5: 販売先の開拓 <u>2. 製品開発支援</u> <u>3. 出張ワークショップによる洋裁技術向上</u> 3-1: ミシンの供与 3-2: 12回のワークショップの実施 3-3: ミシン管理の委託 <u>4. サバナケート職業訓練校本校でのフォローアップ指導</u> 4-2: 2回目のフォローアップ指導
(3) 達成された成果	期待される成果 ①高度な洋裁技術を習得した人材が育成される（高度な洋裁技術とは、日本式の製図を使用し、柄合わせがうまく出来工業用電動ミシンで正確に縫製ができる技術を指す。） (達成された成果) ・当初の予定授業数の1割ほどしかまだ実行できなかった為、申請当初予定していた指標①-1: 訓練生の80%が訓練を修了また指標①-2: 洋裁技能レベル5段階の3以上を修了生80%以上が達成の指標を用いての成果を図ることが出来ない。 期待される成果 ②訓練生自らが現地のニーズを汲み取り、習得した洋裁技術を応用して製品を開発し、市場で取引できるレベルの作品を制作できる。 (達成された成果)

	・当初の予定授業数の1割ほどしかまだ実行できなかった為、申請当初予定していた指標②-1：生徒1人につき1アイテムの製品を開発する。指標②-2：開発製品の評価が5段階評価レベルの4以上の指標を用いて成果を図ることが出来ない。 <u>期待される成果</u> ③出張ワークショップにより学校にアクセスできない人々への洋裁技術の場が提供できる。 (達成された成果) ・新型コロナウイルスの影響により日本人駐在員が一時帰国をしている為ワークショップは実施することが出来なかったが、セポン市のマイノリティ山岳民族の村を訪問してワークショップを開催する村を開拓し、村長と村の婦人会のメンバー(約20名)を集めてワークショップの説明を行った。指標③-2「自治体管理のミシンが住民に活用される」については、ミシンの供与ができなかったため達成できなかった。 【その他達成された成果】 ・新型コロナウイルスの蔓延により事業途中で駐在員二名が日本へ帰国せざるを得なかったため、当団体が提供したラオス語教科書を使って現地で授業ができるよう、洋裁専門家による洋裁授業の動画を制作して現地へ送った。 ●「持続可能な開発目標(SDGs)」に該当する目標における成果 SDGsの目標4.3、4.4、4.5に該当する。 質の高い洋裁技術指導を実施したことにより、多くの人が技術教育にアクセスすることを可能にした。
(4) 持続発展性	①ラオスにおける洋裁技術の発展、普及 フォローアップとしてこの先も1年に1回ほどのペースでラオス人民共和国に赴くと共に、フェアトレードの継続により高度な洋裁技術の定着を図る。学校運営に関しては、県立の職業訓練校のため必要な費用は県から支払われているが、生徒からの授業料の他にフェアトレードの仕立代の3割を学校の維持管理費に充当し運営資金を担保する。事務局長である Mr. Houmpheng Meckhasinh、職業訓練校校長や洋裁科の教員と連絡を取り、洋裁科の生徒数や地元での作品の販売状況の聞き取りのほか、フェアトレード作品として出来上がった作品の出来栄を通してプロジェクトの成果・発展性を確認し現地にフィードバックをすることで生徒が今後も継続して技術向上を促す。 ②日本での話題性、認知度の増進 訓練生が作成した「Made in Xepon」商品を日本でフェアトレード作品として販売することで話題性を図り、日本においても事業の認知度を高める。 【達成された成果】 派遣したプロジェクトマネージャーと洋裁専門家が、ラオス入国の1ヶ月後にコロナ禍で日本に一時帰国せざるを得なくなり、その後の再入国も出来なかった。そのためセポン分校での指導が十分に行えず、完成品を販売する事も認知度を高めることも出来なかったため、次年度もプロジェクトを引き続いて実施し、日本での話題性と認知度を増進するよう努力いたします。